

日本の歴史と風土から研究する日本人の精神性
～今後のスポーツに与える影響～
A study of Japanese spirituality from Japanese history and climate
～an impact on Sports of the future～

1K08B086-0
指導教員 主査 志々田 文明 先生

坂田 一生
副査 宮内 孝知 先生

【目的】

「近代スポーツ」は今や世界中で数え切れないほど多くの種目が行われており、良くも悪くも様々な形態において多くの人々を魅了している。そうしたオリンピックを筆頭とする「近代スポーツ」は、勝利や勝者、結果や記録という合理主義的な概念を最大限に尊重する文化であると言っても過言ではないだろう。

しかし、結果や記録に呪縛されたアスリートが果して「近代スポーツ」を創造力豊かに発展させていくことができるであろうか。私は難しいと考える。そこで創造力豊かなアスリートが活躍できる状況を作るためにも「近代スポーツ」に日本人の精神性を応用することが役に立つのではないかと考えた。明治維新以降の急激な近代化の波に飲まれながら、経済大国としての地位を確立した現在に至ってもなお、脈々と受け継がれている日本人の精神性であればこそ、スポーツと共存し、近代スポーツを合理主義や勝利至上主義から解放することができるのである。今こそ「日本のスポーツ」を生み出すときののだと私は考える

本研究では、次の【方法】述べているように、今後のスポーツに応用することができると思われる日本人の精神性と日本文化についての考察を日本文化論の視点から、歴史・地理・風土に着目し考察を行う。その上で、近代スポーツが内包している問題点を明らかにし、その問題点に対して日本人の精神性がどのように有用なのか、日本的なスポーツはどうあるべきなのかを明らかにすることが本研究の目的である。

【方法】

具体的な研究方法は文献研究である。第2章では呉善花の『日本の曖昧力』と『なぜ世界の人々は「日本の心」に惹かれるのか』、竹田恒泰の『日本はなぜ世界でいちばん人気があるのか』、呉善花・竹田恒泰の『日本人て、なんですか?』を中心に検討した。これらの著書は日本文化論を網羅的に論じているため、日本人の精神性を多角的かつ総体的に捉える上で極めて有用であると考えられるためである。ただし、検討に当たっては、スポーツとの関係を考察する上で重要と思われる論点のみを取り上げた。

続く第3章では、ヨハン・ホイジンガの『ホモ・ルーデンス』、中村敏雄の『スポーツの風土』と『近代スポーツの実像』を検討することで、日本人の精神性、とりわけ勝負事に

対する美意識をスポーツの原義と結びつける作業を行う。

結論では第2章と第3章で検討した事柄についてまとめ、日本的なスポーツの展望を述べる。

【結論】

本研究の課題は以下の二点であった。

- 1.日本の文化と日本人の精神性の背景にはどのような歴史や地理的条件があり、それぞれどのような性質であるか。
- 2.近代スポーツが内包している問題に対して、上記1で明らかにした日本の文化と日本人の精神性はどのように有用か。また、今後のスポーツはどうあるべきか。

研究の結果明らかになったことは以下のとおりである。

- 1.(1)日本人の精神性の根底には、日本が特殊な地理的・風土的条件の下で繁栄してきたことによる、「調和」「融合」といった他者との「共存」「共生」の意識がある。
(2)日本の文化は多種多様な文化を広く取り入れ発展させ、独自のものとしていく文化であり、様々な文化が融合したものである。
(3)日本人の精神性は美意識にまで昇華され、「いさぎよさ」や「他者への思いやり」は極限状態に陥ってもなお失われることはなく、それ故世界的に高く評価されている。
- 2.(1)近代スポーツには欧米的な勝利至上主義・結果至上主義が蔓延しており、スポーツの本質が失われつつある。そのため近代スポーツの終わりは近いと考えられる。
(2)勝利至上主義・結果至上主義に呪縛されたアスリートではなく、日本人にみられる「共生」「共存」の精神性をもった創造力豊かなアスリートが増えていくことで、今後のスポーツをより豊かに発展させる。
(3)今後のスポーツは日本的なスポーツとして発展していくべきであり、スポーツにおいて最も重要視されるべきことが「勝利」や「結果」で、そのためなら人間関係や倫理観・道徳観を犠牲にしても構わないという価値観から解放されるべきである。そして、スポーツが既述したような価値観から解放されるには、日本人の「共生」「共存」、「いさぎよさ」「他者への思いやり」といった精神性・美意識が有用である。